

McLaren Honda MP4/4

1988 WORLD CHAMPIONSHIP WINNING CAR

9

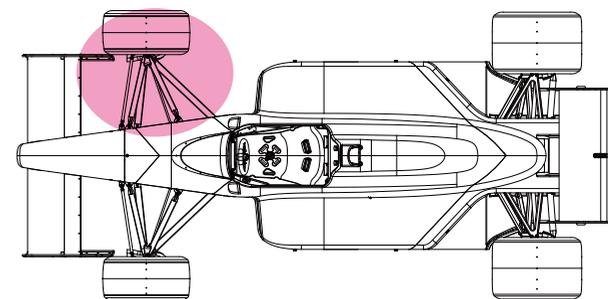
マクラーレン ホンダ
MP4/4

最速の世界を制した伝説のメモリアルマシンを
内部機構まで完全再現！



Mission 31 右のフロントサスアームを 組み立てる②

今号は、まずフロントブレーキ(右)をフロントサスアーム(右上)に取り付け、次にそれらをモノコックにプルロッド、トラックロッドと一緒に装着する。これにより、左右のステアリング部分の取り付けが完了し、ステアリングシャフトが連動するようになった。



今号のパーツ

- ① フロントサスアーム(右上) ダイキャスト製
 - ② プルロッド ダイキャスト製
 - ③ トラックロッドマウントブラケット(右) メタル製
 - ④ ボールシャフト メタル製
 - ⑤ プルロッドマウントブラケット(右) メタル製
- ⑥ ビスM (1.4×4P-M SiL)×2
 - ⑦ ビスP (1.4×6P-M SiL)×4
 - ⑧ ビスR (1.4×4F-M BK)×2
 - ⑨ ビスS (1.4×12P-M BK)×2

※ ビスは予備 1本を含む。

今号で使用する道具

- ・瞬間接着剤
- ・プラスドライバー (00番)
※ 2号で提供(市販のドライバーでも可)
- ・プラスドライバー (0番)
※ 22号で提供(市販のドライバーでも可)
- ・カッター ・カッティングマット
- ・マスキングテープ ・ピンセット ・つまようじ

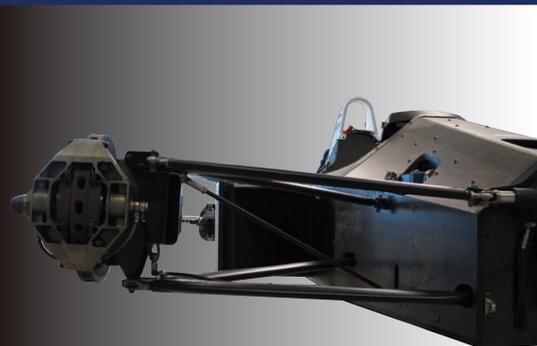
用意するもの

- ・サスアームジョイント(右前) ※ 11号で提供
- ・フロントブレーキ(右) ※ 12号で組み立て
- ・モノコック ※ 30号で組み立て
- ・トラックロッド ※ 30号で提供
- ・ビスP (1.4×6P-M SiL)×1 ※ 30号で提供
- ・ビスQ (2.0×8P-M SiL)×1 ※ 30号で提供

ポイント

ステアリングシャフトの連動を確認する

今号の組み立てによって、ステアリング部分の取り付けが終了する。それぞれのパーツが左右対称になっていることを確認し、フロントブレーキを赤矢印の方向に動かして、ステアリングシャフトが連動することを試してみよう。

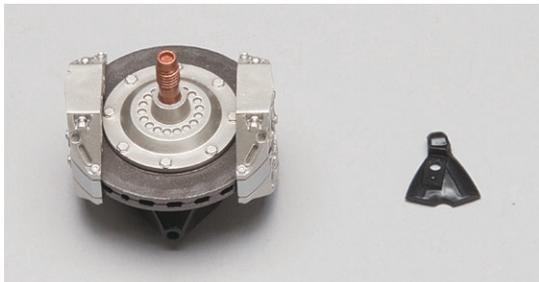


トラックロッドはステアリングの機能を、プルロッドはフロントサスペンションの機能をタイヤに伝達するための欠かせない部分だ。本モデルでは、プルロッドやトラックロッドだけでなく、プルロッドが取り付けられるプルロッドマウントブラケットのディテールにもこだわり、実車に近い形状となっている。

◀ MP4/4の右前のアームやロッド類。

1 フロントサスアーム (右上) にフロントブレーキ (右) を取り付ける

● 12号で組み立てたフロントブレーキ(右)と11号で提供されたサスアームジョイント(右前)を用意する。



《仮組み》

④ ボールシャフトに、
⑨ ビスSが差し込めることを確かめ、ビスSを抜く。



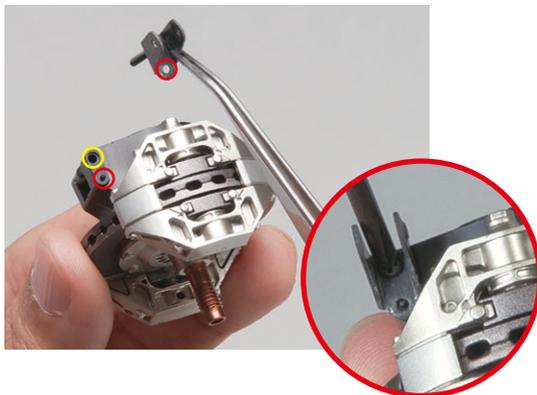
● 29号の組み立てガイドを参照しながら、フロントブレーキ(右)に赤矢印で示したボールシャフトをはめ込み、ビスS(赤丸部分)を通して、それぞれの穴の位置を合わせる。調整後ビスSは抜く。



● ⑩トラックロッドマウントブラケット(右)にビスSを写真のように通す。



● フロントブレーキ(右)の赤丸の突起にトラックロッドマウントブラケット(右)の赤丸の穴を合わせながら、黄丸の穴にビスSを差し込み、プラスドライバー(00番)で締める。

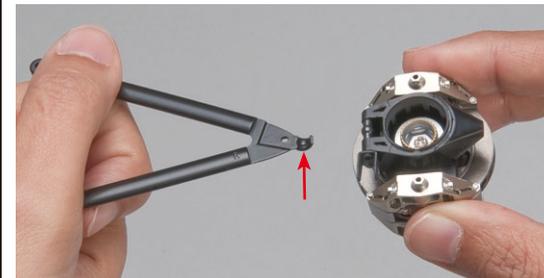


● 11号で提供されたサスアームジョイント(右前)の赤点部分につまようじの先で瞬間接着剤を少量塗り、赤線で囲んだ部分とトラックロッドマウントブラケット(右)の形状を組み合わせ、完全に接着するまで1分ほどおさえる。



■ピンセットを使うと作業がしやすい。

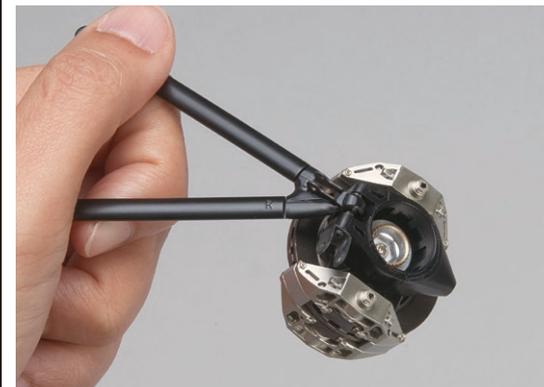
● ①フロントサスアーム(右上)の赤矢印で示したフック状の部分をフロントブレーキ(右)に取り付けたボールシャフトに掛ける。



● フロントサスアーム(右上)の赤枠で囲んだ部分にサスアームジョイント(右前)を組み合わせる。

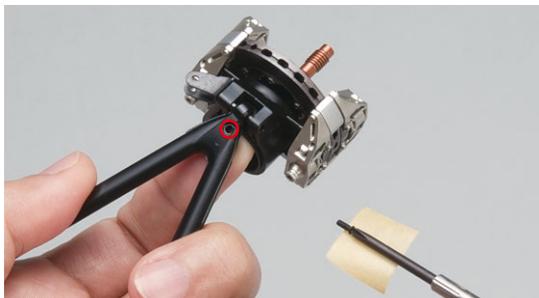


● フロントサスアーム(右上)とサスアームジョイント(右前)がきちんと重なっていることを確認する。



NEXT STEP >>>

- フロントサスアーム(右上)とサスアームジョイント(右前)がずれないようにしっかりと押さえながら裏返し、赤丸の穴に⑧ビスRを通し、プラスチックドライバー(00番)で締める。



■プラスチックドライバー(00番)の先端にマスキングテープでビスRを固定しておくとして作業しやすい。

- 写真を参考に、フロントサスアーム(右上)に正しい向きでフロントブレーキ(右)が取り付けられていること、ボールシャフト部分の動きを確認する。

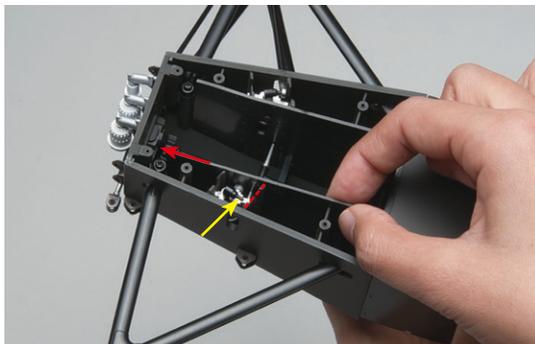


2 モノコックにプルロッドとフロントサスアーム(右上)を取り付ける

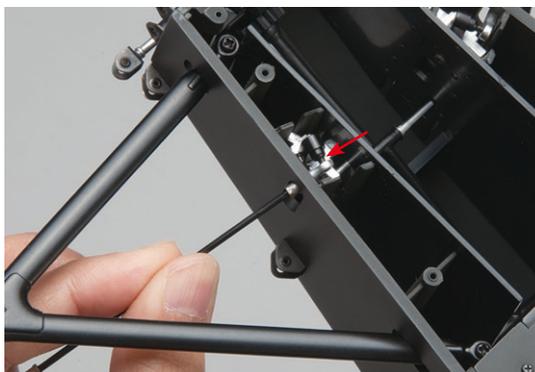
- 30号で組み立てたモノコックと30号で提供したビスP、ビスQを用意する。



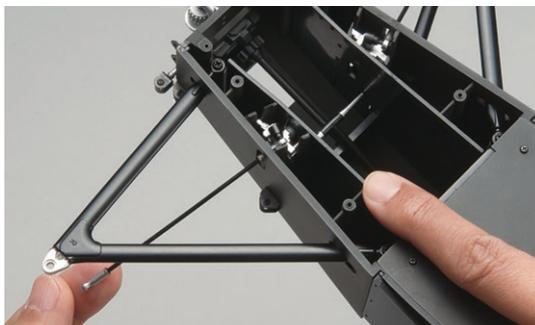
- モノコック内側に取り付けられたショックスタビユニットを、やや持ち上げながら赤矢印の方向に押し、黄色い矢印で示した突起と赤い点線の仕切りとの間にすき間をつくる。



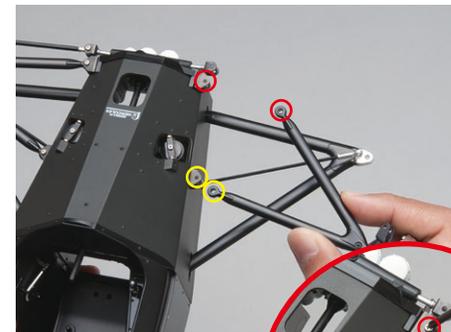
- ② プルロッドをモノコックの側面の穴を通して、先端の輪を赤矢印部分の突起に差し込む。



- ショックスタビユニットをもとの位置に戻す。



- プルロッドの先端がフロントサスアーム(右下)の上に出ていることを確認してから、フロントサスアーム(右上)の赤丸と黄色い丸を、モノコックの同色の丸で示したビス穴に合わせ、それぞれビスPを差してプラスチックドライバー(00番)で締める。



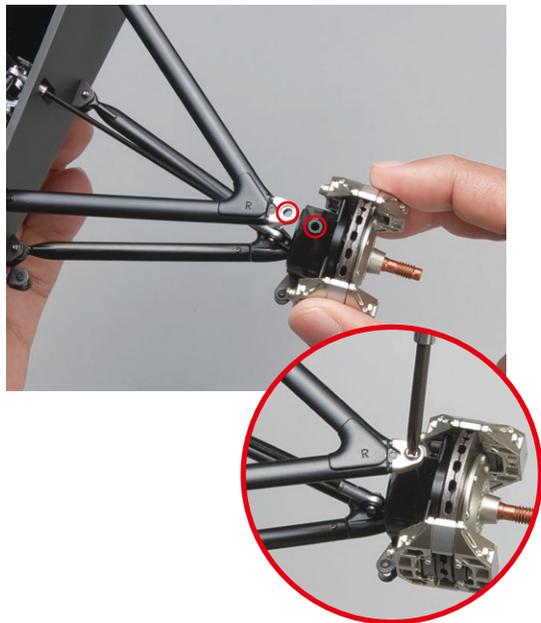
■ビスの頭がブラケットに接したら締めるのをやめる。

- プルロッドの先端の輪をプルロッドブラケットの赤丸部分に合わせて、写真のような向きで⑥ビスMを差しプラスチックドライバー(00番)で締める。

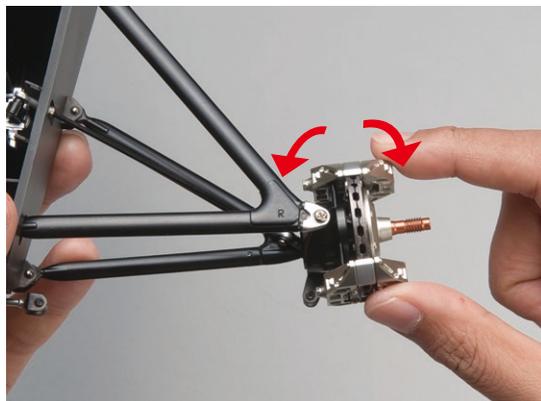


■ビスの頭がブラケットに接したら締めるのをやめる。

● フロントブレーキ(右)とフロントサスアーム(右下)の赤丸部分を合わせ、ビスQを差し、プラスドライバー(0番)で締める。締めすぎるとフロントブレーキが動かなくなるので、抵抗を感じたところで1回転ほどゆるめる。



● 赤矢印の方向に動かし、フロントブレーキ(右)がスムーズに動くことを確かめる。



3

トラックロッドを取り付ける

● 30号で提供されたトラックロッドを用意する。



● トラックロッドの赤丸と黄色い丸を、車体側の同色の丸で示したビス穴に合わせ、ビスPを差し、プラスドライバー(00番)で締める。



■ ビスPは頭がブラケットの上面に接したら締めるのをやめる。

Check

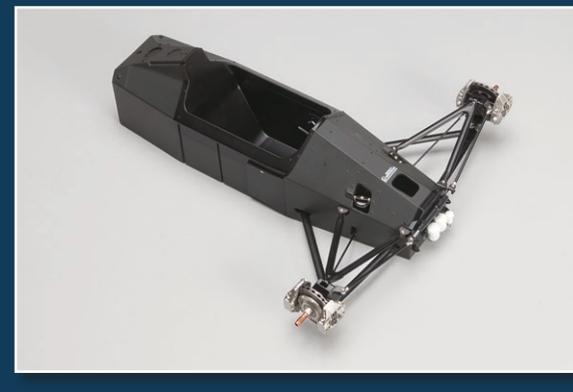


完成時イメージ▲

■ タイヤを装着した状態。

今号の完成

モノコックに、フロントブレーキ(右)を取り付けたフロントサスアーム(右上)とプルロッド、さらにトラックロッドが装着された。



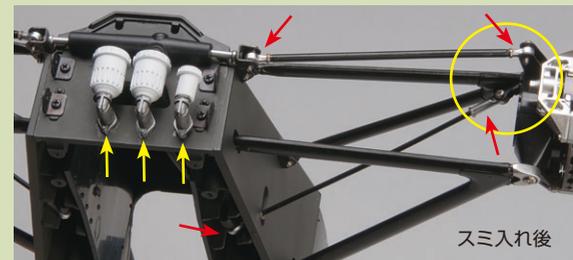
ディテールアップ

トラックロッドとプッシュロッド、ブレーキ/クラッチメスシリンダーのスミ入れ

● トラックロッドやプッシュロッドの赤矢印で示したつなぎ目部分を左右ともに、ブレーキ/クラッチメスシリンダーの黄色い矢印で示した銀色の部分にスミ入ると重厚感が増す。



拡大図

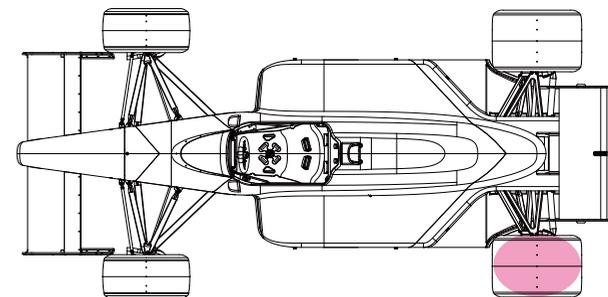


スミ入れ後

※スミ入れはディテールアップのための任意の作業だ。詳しいスミ入れ工程については、9号の組み立てガイドを参考にしよう。

Mission 32 ブレーキディスクと ブレーキキャリパーを組み立てる

これまでフロントブレーキを組み立ててきたが、今号からリアブレーキの組み立てに入る。まずリアブレーキの一部となるブレーキディスクとブレーキキャリパーを組み立てる。さらに、ワイヤーを中に通したホースを用意し、サイドポンツーンの4箇所に取り付ける。



今号のパーツ

① ブレーキディスク(外)



② ブレーキディスク(内)



③ ブレーキキャリパー
(内)×2



④ ブレーキキャリパー
(外)×2



⑤ ブレーキパッド×4



※ ①～⑤はHIPS (スチロール樹脂)製

今号で使用する道具

- ・プラモデル(スチロール樹脂)用接着剤
- ・カッター ・カッティングマット
- ・定規 ・ピンセット
- ・つまようじ

用意するもの

- ・サイドポンツーン(右) ※21号で組み立て
- ・ホースA ※30号で使用
- ・ワイヤーA ※30号で使用

ディテールアップ

ブレーキディスクのスミ入れ

●ブレーキディスクは、今号のステップ1の作業後に、青丸の内側に並ぶ小さな丸い凹みそれぞれにスミ入れする。



ブレーキキャリパーのスミ入れ

●2つのブレーキキャリパーは、今号のステップ2の作業後に、赤矢印で示した凹みに影を強調する程度に薄くスミ入れをする。



※スミ入れは任意の作業だ。詳しいスミ入れ工程については、9号の組み立てガイドを参考にしよう。



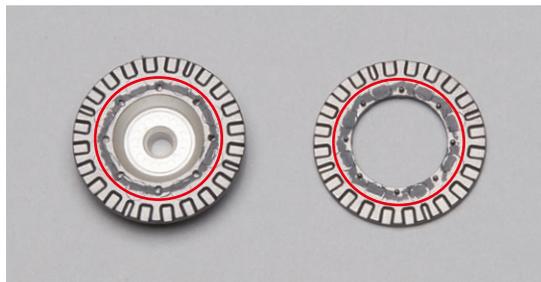
MP4/4のブレーキはブレンボ製のダブルキャリパーを採用している。フロントブレーキとリアブレーキの構造は同じだが、車体への取り付け角度が異なり、フロントブレーキではブレーキパッドが地面に対して垂直に、リアブレーキはやや角度をつけて取り付けられる。本モデルでは、ブレーキディスクやブレーキキャリパーの質感やディテールを細かく再現している。

◀MP4/4のリアブレーキ。

In Focus

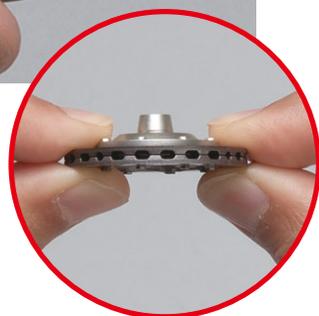
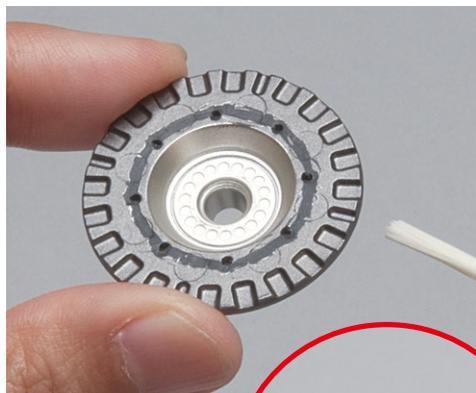
1 ブレーキディスクを組み立てる

● 3号の組み立てガイドを参照しながら、①ブレーキディスク(外)と②ブレーキディスク(内)の8つの突起や穴を結ぶ円周部分(赤丸)の塗装をカッターの刃のない部分ではがす。



■ 接着面に塗装のかすが残らないようにする。

● ブレーキディスク(外)の8つの穴と塗装をはがした部分にプラモデル(スチロール樹脂)用接着剤を塗り、ブレーキディスク(内)と側面の穴の形状を合わせて指で2～3分おさえる。



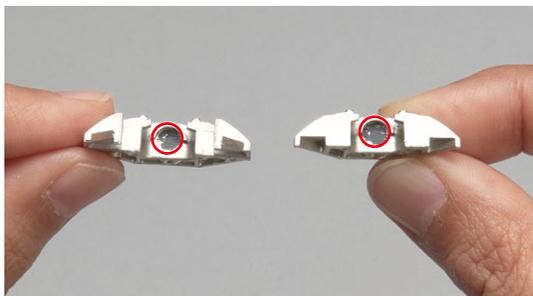
■ 側面の穴の形状が、写真のように整っていることを確認する。

● 完全に接着するまで1時間ほどおく。

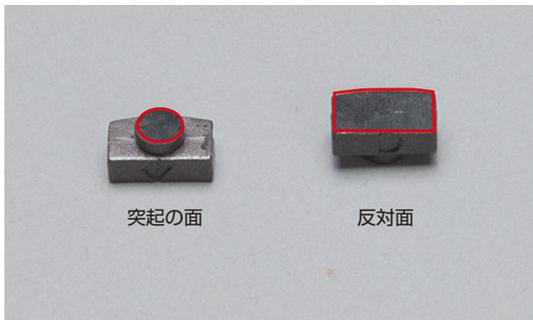


2 ブレーキキャリパーを組み立てる

● 3号の組み立てガイドを参照しながら、③ブレーキキャリパー(内)×2と④ブレーキキャリパー(外)×2、それぞれの赤丸部分の塗装をはがす。



● ⑤ブレーキパッド×4の赤丸で示した突起の面と、その反対側の赤線で囲った部分の塗装をカッターの刃のない部分で写真のようにはがす。



● ブレーキキャリパー(外)の塗装をはがした部分にプラモデル(スチロール樹脂)用接着剤を塗り、ブレーキパッドと組み合わせて指で2～3分おさえる。

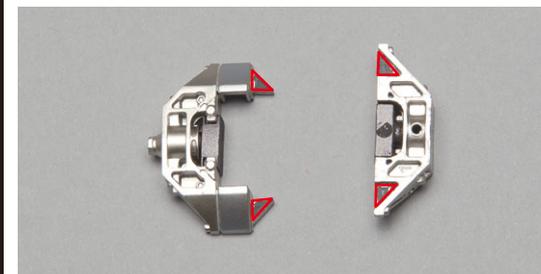


■ ブレーキパッドがずれないように注意しておさえる。

● 残りのブレーキキャリパー(外)、2つのブレーキキャリパー(内)も同様にブレーキパッドを取り付け、完全に接着するまで1時間ほどおく。

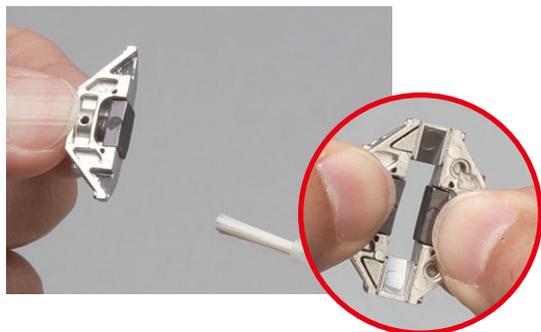


● ブレーキキャリパー(内)×2とブレーキキャリパー(外)×2の、赤線で囲んだ部分の塗装をカッターの刃のない部分ではがす。



NEXT STEP >>>

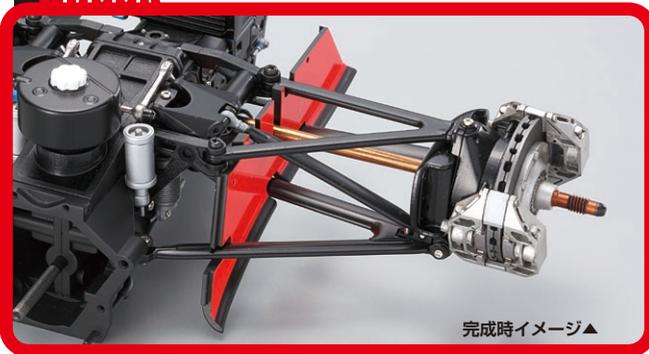
- ブレーキキャリパーの塗装をはがした部分にプラモデル(スチロール樹脂)用接着剤を塗り、ブレーキパッドと組み合わせて指で2~3分おさえる。



- 同様の作業をして、もう1つのブレーキキャリパー(外)とブレーキキャリパー(内)にブレーキパッドを取り付け、完全に接着するまで1時間ほどおく。



Check



完成時イメージ▲

- 今後の取り付け作業の前に、ブレーキキャリパーの内と外が正しく接着されているか確認しておこう。

3 サイドポンツーン(右)にホースを取り付ける①

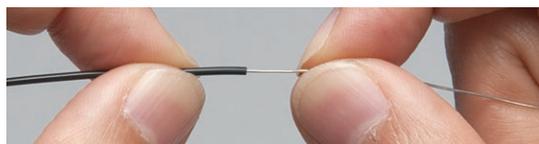
- 21号で組み立てたサイドポンツーン(右)と30号で使用したホースA、ワイヤーAを用意する。



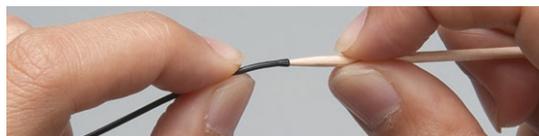
- 30号の組み立てガイドを参照しながら、ホースAを70ミリ、ワイヤーAを67ミリの長さにカッターで切る。



- ホースAの中にワイヤーAを通し、端を片方に合わせる。

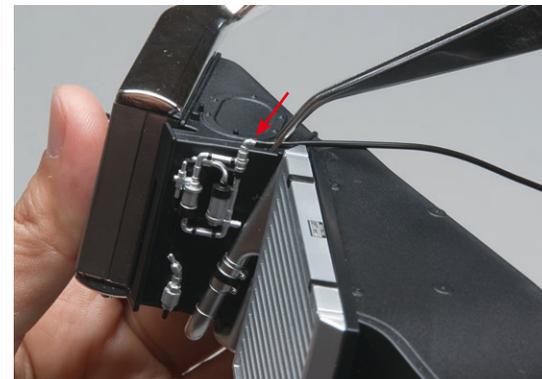


- ホースの反対側、ワイヤーAが出ていない部分の穴につまようじを差して5分ほどおく。この時、ホースが広がりにくい場合は、つまようじの先端を1ミリ程度カットして使用する。



- 穴を広げたホースは時間とともに収縮するので、つまようじを抜いた後はすぐに次の作業へ進む。

- サイドポンツーン(右)の赤矢印で示した部分の突起にホースを接続する。すぐに外れてしまう場合は、突起の先端に、ごく少量の瞬間接着剤を塗ってから作業を行う。



- 接続したホースの反対側は、写真のようにサイドポンツーン(右)の上に合わせてから、後ろ側に曲げる。

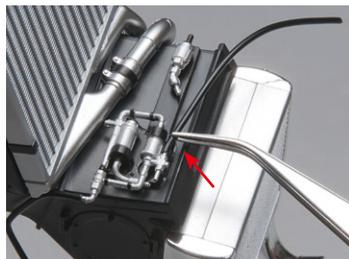


4 サイドポンツーン(右)にホースを取り付ける②

- ステップ 3 と同様に、ホースAを52ミリ、ワイヤーAを49ミリにカットして、ワイヤーの出ている端をつまようじで広げる。



- サイドポンツーン(右)の赤矢印で示したサイドポンツーンユニットの突起にホースを接続する。



■ホースを接続する位置に注意する。

- 接続したホースの反対側は、写真のようにサイドポンツーンの下側に回す。



5 サイドポンツーン(右)にホースを取り付ける③

- ステップ③と同様に、ホースAを65ミリ、ワイヤーを62ミリにカットして、ワイヤーの出ている端をつまようじで広げる。



- サイドポンツーン(右)の赤矢印で示したサイドポンツーンユニットの突起にホースを接続する。



■ホースを接続する位置に注意する。

- 接続したホースの反対側は、写真のようにサイドポンツーンの上にあるインタークーラーに沿わせてから後ろにまわす。



6 サイドポンツーン(右)にホースを取り付ける④

- ステップ③と同様に、ホースAを80ミリ、ワイヤーを77ミリにカットして、ワイヤーの出ている端をつまようじで広げる。



- サイドポンツーン(右)の赤矢印で示したサイドポンツーンユニットの突起にホースを接続する。



■ホースを接続する位置に注意する。

- 接続したホースの反対側は、写真のようにサイドポンツーンの上にあるインタークーラーに沿わせてから後ろにまわす。



- サイドポンツーン(右)に、ホース4本が取り付けられた。



今号の完成

リアブレーキに用いるブレーキディスクとブレーキキャリパーが組み立てられ、サイドポンツーン(右)にホースが4本取り付けられた。



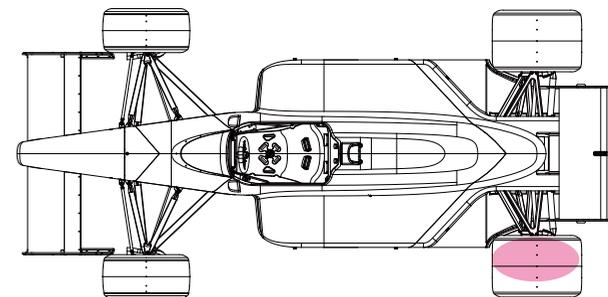
保管パーツ

今号で使用したホースAとワイヤーAの残りは、後の号で使用するまで大切に保管しておこう。



Mission 33 左のリアブレーキを組み立てる

今号は、リアアップライト(左外)にリアブレーキハブ、アクスルスペーサー、CVジョイント(外)、リアアクスルを組み立てた後に、リアアップライト(左中)、リアアップライト(左内)を取り付ける。さらに、リアアップライト(左)にブレーキディスクとブレーキキャリパーを装着する。



今号のパーツ

- ① リアアップライト(左中) ② リアアップライト(左内) ③ リアブレーキダクト(左)



- ④ リアブレーキハブ



- ⑤ リアアップライト(左外)



- ⑥ アクスルスペーサー



- ⑦ CVジョイント(外)



※ ⑥と⑦は組み合わせた状態で梱包されている。

- ⑧ リアアクスル メタル製



- ⑨ ビスE (2.0×6P-M SiL)×2



- ⑩ ビスR (1.4×4F-M BK)×4



※ビスは予備1本を含む。

※①～⑦はHIPS (スチロール樹脂)製

今号で使用する道具

- ・プラモデル(スチロール樹脂)用接着剤
- ・プラスドライバー (00番)
※2号で提供(市販のドライバーでも可)
- ・プラスドライバー (0番)
※22号で提供(市販のドライバーでも可)
- ・カッター
- ・カッティングマット
- ・マスキングテープ
- ・定規
- ・ピンセット
- ・コピー用紙程度の厚さの紙(1枚)

用意するもの

- ・ブレーキキャリパー×2 ※32号で組み立て
- ・ブレーキディスク ※32号で組み立て

ディテールアップ

リアアクスルのスミ入れ

●リアアクスルの赤矢印で示した先端の凹み部分にスミ入れすると重厚感が増す。

※スミ入れは任意の作業だ。詳しいスミ入れ工程については、9号の組み立てガイドを参考にしよう。



スミ入れ後



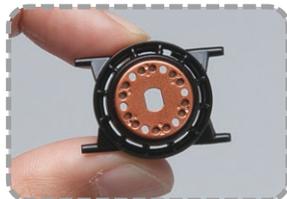
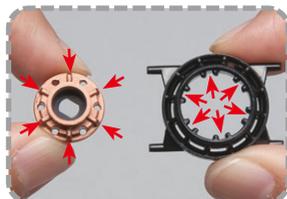
リアアップライトは、フロントアップライト同様にサスペンションアームの先端に取り付けられる部品だ。エンジンの動力を伝えるドライブシャフトが接続されるので、フロントアップライトにはないCVジョイント(等速ジョイント)が取り付けられる。本モデルでは、リアアップライトの構造を実車に近いディテールで再現している。

◀MP4/4のリアブレーキ(部分)

1 リアアップライト (左外) にリアブレーキハブを取り付ける

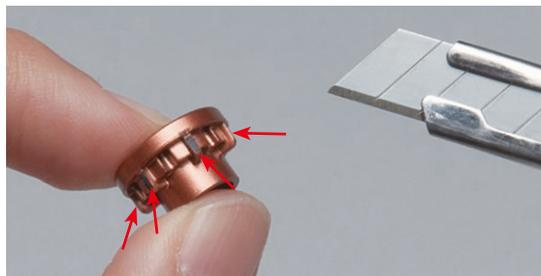
《仮組み》

⑤ リアアップライト(左外)の内側にある赤矢印で示した狭い突起の間に、④ リアブレーキハブの赤矢印で示した突起を組み合わせ、接着する部分を確認する。



■リアブレーキハブが動かないことを確認する。

●リアブレーキハブの赤矢印で示した接着面の塗装をカッターの刃のない部分でけずる。

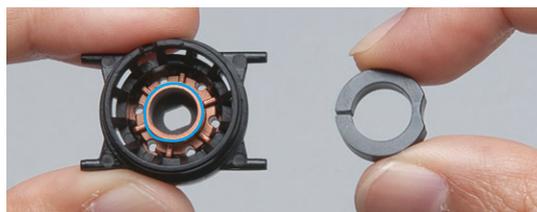


●リアアップライト(左外)の赤矢印で示した狭い突起の間にプラモデル(スチロール樹脂)用接着剤を塗る。仮組みしたようにリアブレーキハブを合わせ、指で2~3分おさえる。



2 リアアップライト (左外) にアクスルスペーサーとCVジョイント (外)、リアアクスルを取り付ける

●リアアップライト(左外)の青丸で示した部分に⑥アクスルスペーサーをはめる。アクスルスペーサーには向きはない。



●リアアップライト(左外)の青丸で示した部分に⑦CVジョイント(外)をはめる。

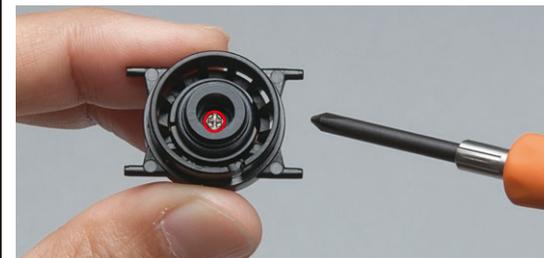


●CVジョイント(外)を指で押さえながらリアアップライト(左外)を裏返し、⑧リアアクスルをリアブレーキハブの穴の形に合わせて差し込む。



■奥までしっかりとリアアクスルを差し込む。

●CVジョイント(外)側の赤丸で示した部分に⑨ビスEを差し、プラスドライバー (0番)で締める。



●リアアップライト(左外)にリアブレーキハブ、アクスルスペーサー、CVジョイント(外)、リアアクスルが取り付けられた。



3 リアアップライト (左外) にリアアップライト (左中)、リアアップライト (左内) を取り付ける

《仮組み》

リアアップライト(左外)の赤矢印で示した凹みと①リアアップライト(左中)の赤矢印で示した突起を合わせて、接着面を確認する。

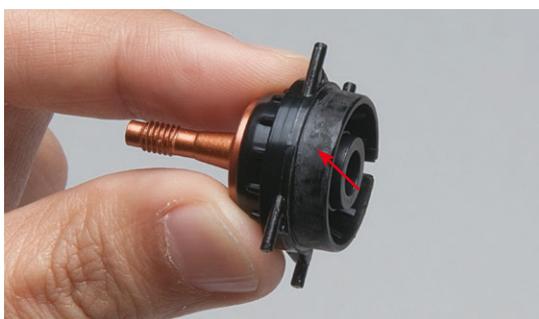


《仮組み》

リアアップライト(左中)とeリアアップライト(左内)を合わせて、接着面と赤丸で示したビス留めの3箇所を確認する。



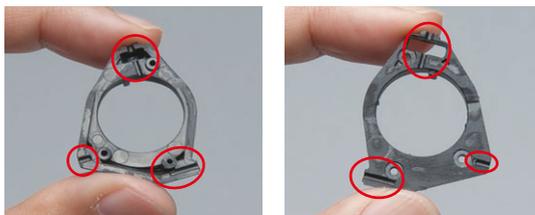
●リアアップライト(左外)の赤矢印で示した接着面の塗装をカッターの刃の削らない部分ではがす。



●リアアップライト(左中)の、赤矢印で示したリアアップライト(左外)との接着面の塗装をカッターの刃の削らない部分ではがす。



●リアアップライト(左中)とリアアップライト(左内)、それぞれの接着面となる部分の塗装をカッターの刃の削らない部分ではがす。



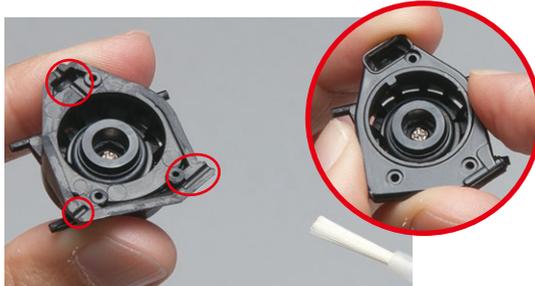
■赤丸で示した溝の部分は、それぞれ後にビス留めを行う箇所となる。確実に接着するよう、その周りは丁寧に削る。

●リアアップライト(左外)にプラモデル(スチロール樹脂)用接着剤を塗り、リアアップライト(左中)を合わせて指で2~3分おさえる。



■はみ出し防止のために、プラモデル用接着剤は先端から半分程度までにする。

●リアアップライト(左中)の塗装をはがした部分に接着剤を塗り、リアアップライト(左内)を合わせる。



■後にビス留めする箇所となる赤丸で示した溝の部分には、確実にプラモデル用(スチロール樹脂)接着剤を塗る。

●赤丸で示した3箇所に⑩ビスRをそれぞれ差し、プラスドライバー(00番)で締める。



●完全に接着するまで、1時間ほどおく。リアアップライト(左)が完成した。



4

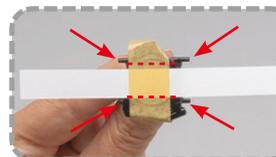
リアアップライト(左)にブレーキディスクとブレーキキャリパーを接着する

●32号で組み立てたブレーキディスクとブレーキキャリパー×2、1×10センチに切った紙と4センチと6センチ程度のマスキングテープを1本ずつを用意する。



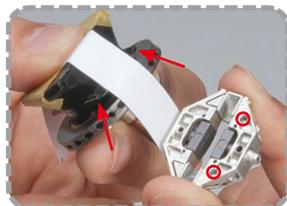
《仮組み》

リアアップライト(左)の赤矢印で示した突起を結ぶ赤点線の内側中央に、用意した紙を4センチのマスキングテープで写真のように固定する。次にブレーキディスクをアスクールシャフトに差し込む。



《仮組み》

ブレーキキャリパーで紙を軽く押し曲げながらブレーキディスクをはさみ込む。この時、赤矢印で示したリアアップライト(左)の突起に、ブレーキキャリパーの赤丸の穴を合わせる。



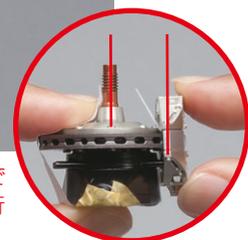
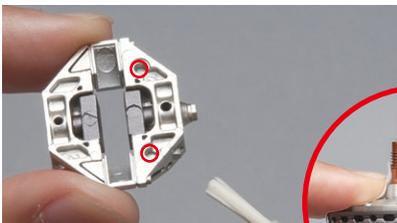
■紙をはさむことで、ブレーキディスクとブレーキキャリパーの間に適度なすき間ができる。

《仮組み》

同様の作業をして、もう1つのブレーキキャリパーもリアアップライト(左)に仮組みする。その後、ブレーキキャリパーを2つとも取り外すと、紙がブレーキディスクに沿うような形で癖がつく。

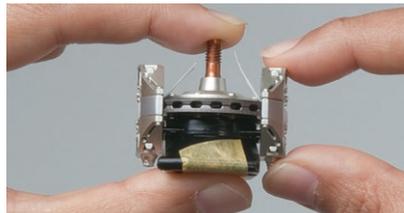


●ブレーキキャリパーの赤丸で示した穴の中に接着剤を塗り、仮組みしたようにリアアップライト(左)に組み合わせ、指で2~3分おさえる。



■ブレーキキャリパーが赤線で示したようにリアアクスルと平行になるよう固定する。

●同様に、もう1つのブレーキキャリパーもリアアップライト(左)に接着する。



●用意した6センチのマスキングテープで2つのブレーキキャリパーとリアアップライト(左)を写真のように固定し、完全に接着するまで1時間ほどおく。



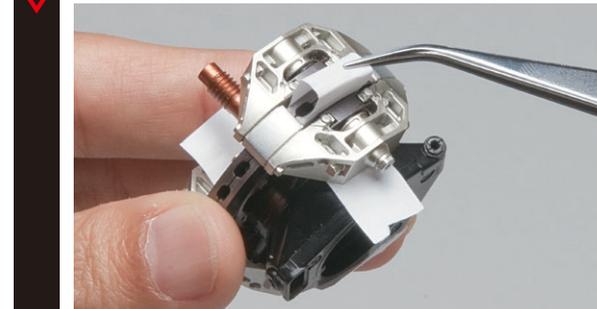
●完全に接着したら、紙が動かないようにしながら、マスキングテープのみをはがす。



●パーツに傷をつけないよう注意しながら、カッターで紙の中心部分を切り離す。



●切り離された紙を、写真のようにピンセットでそれぞれ抜き取る。



今号の完成

リアアップライト(左外)にリアブレーキハブ、アクスルスペーサー、CVジョイント(外)、リアアクスル、リアアップライト(左中)、リアアップライト(左内)、ブレーキディスク、ブレーキキャリパーが取り付けられ、左のリアブレーキが完成した。



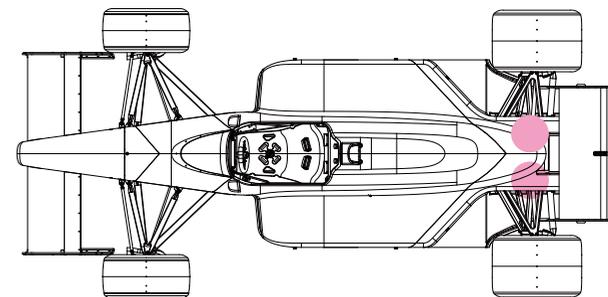
保管パーツ

今号で使用しなかった③リアブレーキダクト(左)は、後の号で使用するまで大切に保管しておこう。



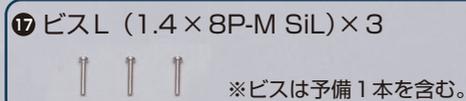
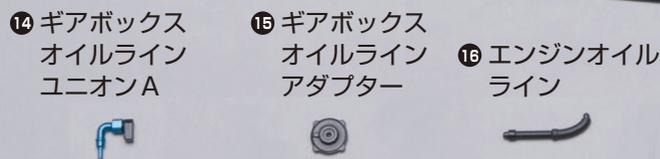
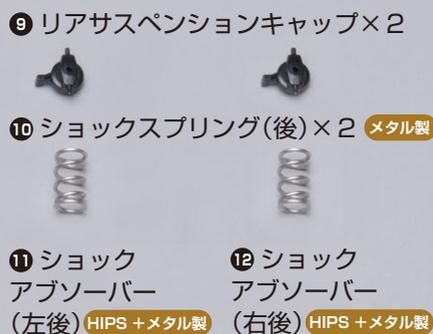
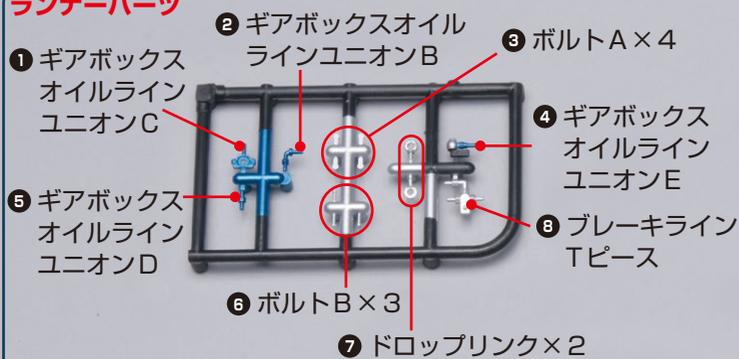
Mission 34 リアサスペンションを組み立てる

今号は、ショックアブソーバーにショックスプリングを組み合わせた後、リアサスペンションキャップを取り付けて、リアサスペンションを完成させる。このパーツはフロントにも同様のものがあるが、スプリングのコイルの巻き数などが異なっている。次にブレーキラインTピースにホースを接続する。



今号のパーツ

ランナーパーツ



※①～⑨、⑬～⑯はHIPS (スチロール樹脂)製

今号で使用する道具

- ・ プラスドライバー (00番)
※2号で提供(市販のドライバーでも可)
- ・ カッター
- ・ カッティングマット
- ・ 定規
- ・ ピンセット
- ・ つまようじ

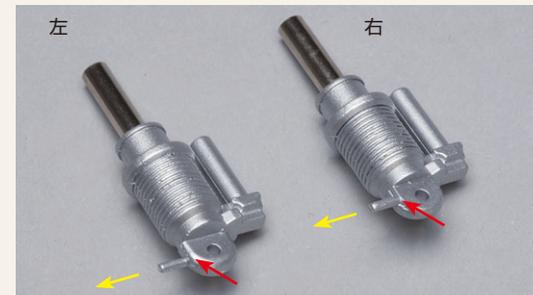
用意するもの

- ・ ホースA ※32号で使用

ポイント

ショックアブソーバーの左右の見分け方

●黄色の矢印の方向に突起を向けた時に、赤矢印で示した部分の段差がない方が内側となる。段差のない向きで突起が左側にあるものが右、右側にあるものが左となる。後の号で取り付けの際に必要なので、確認しておこう。



サスペンションは、地面からの衝撃や振動を緩和するとともに、マシンの操縦性にも影響を与える重要な部分だ。フロントにも同様のものがあるが、その形状は異なる。特にリアショックスプリングはフロントのものとは色やコイルの巻き数が違い、またショックアブソーバーにも専用のリザーバタンクが付くなど仕様が異なる。本モデルでも1:8のビッグスケールを生かし、細部まで再現している。

◀MP4/4のリアショックアブソーバー、リアショックスプリング。

In Focus

1 リアサスペンションを組み立てる

- 写真のように、⑩ショックアブソーバー（左後）に⑪ショックスプリング（後）をはめる。



■ショックスプリング（後）はどちらからはめてもよい。

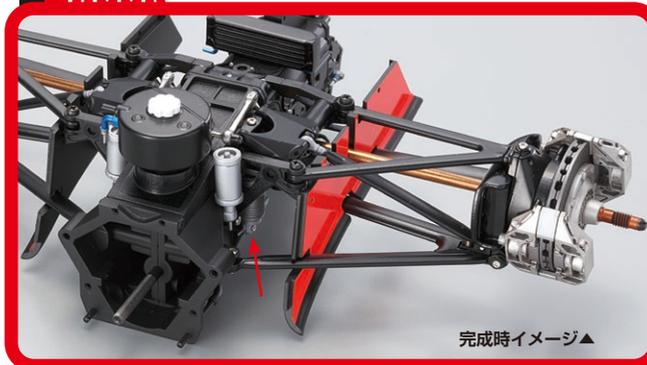
- さらに⑨リアサスペンションキャップを組み合わせ、赤丸で示したビス穴に⑫ビスLを差し込み、プラスドライバー（00番）で締める。



- ⑫ショックアブソーバー（右後）もショックアブソーバー（左後）と同様に、もうひとつのショックスプリング（後）をはめ、ビスLで留める。



Check



■組み立てられたリアサスペンションは、後にギアボックスの赤矢印で示した部分に取り付けられる。

2 ブレーキラインTピースにホースAを取り付ける

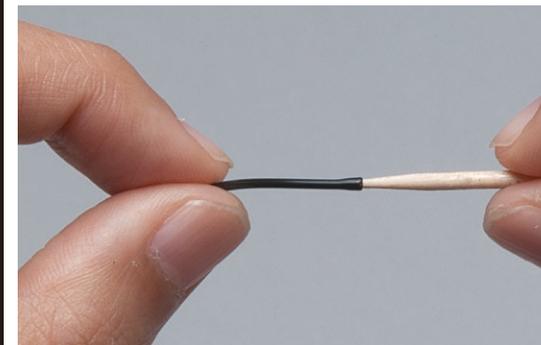
- 32号で使用したホースAを用意する。



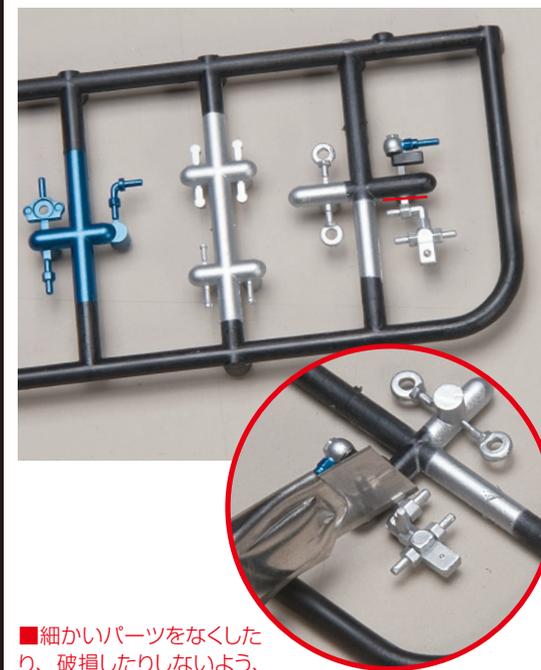
- ホースAを87ミリの長さにカッターでカットする。



- ホースAの片方の端につまようじを5分程度差し込み、穴を広げる。



- ランナーパーツを裏返し、ランナーと⑧ブレーキラインTピースのつなぎ目（ゲート）をカッターでカットする。カットする際は、パーツのぎりぎりまでカットすると破損することがあるので、まずゲート部分を残すようにする。



■細かいパーツをなくしたり、破損したりしないよう、使用する時にランナーから切り離すようにする。

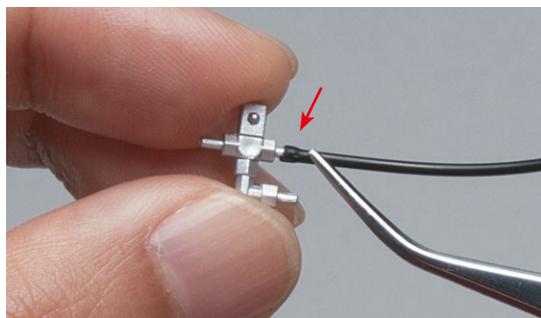


● 赤線で示したように、パーツに残った余分な部分(ゲート)をカットする。



■ パーツを傷つけないよう慎重に作業する。

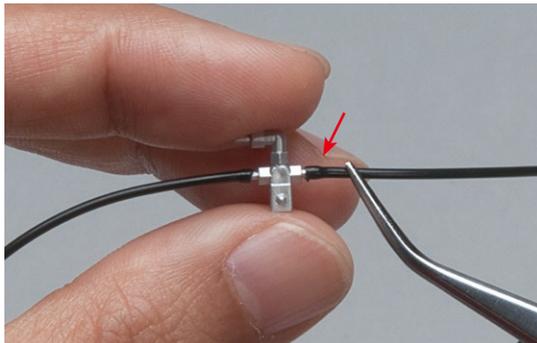
● ホースAからつまようじを外し、すぐにブレーキラインTピースの赤矢印で示した部分に取り付ける。



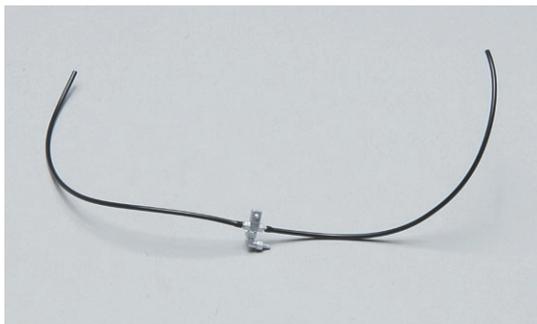
● ホースAを95ミリの長さでカッターでカットし、片方の端につまようじを5分程度差し込み、穴を広げる。



● ホースAからつまようじを外し、すぐにブレーキラインTピースの赤矢印で示した部分に取り付ける。



● ブレーキラインTピースにホースAが2本取り付けられた。



Check



完成時イメージ▲

■ ブレーキラインTピースに接続されたホースは、後の号で赤矢印に示した部分に取り付けられる。

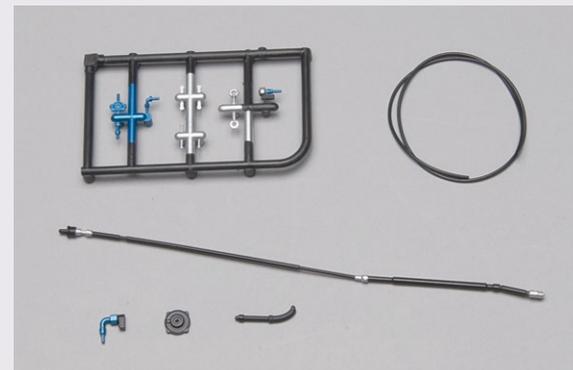
今号の完成

左右のリアサスペンションを組み立て、ブレーキラインTピースにホースを接続した。



保管パーツ

今号で使用しなかったランナーパーツの①ギアボックスオイルラインユニオンC、②ギアボックスオイルラインユニオンB、③ボルトA×4、④ギアボックスオイルラインユニオンE、⑤ギアボックスオイルラインユニオンD、⑥ボルトB×3、⑦ドロップリンク×2のほか、⑬ギアリンクージ、⑭ギアボックスオイルラインユニオンA、⑮ギアボックスオイルラインアダプター、⑯エンジンオイルライン、ホースAの残りは、袋に入れるなどして後の号で使用するまで大切に保管しておこう。



ディテールアップ

ショックアブソーバー、ブレーキラインTピース、
ギアリンケージのスミ入れ

各パーツの赤矢印で示した部分それぞれにスミ入れをすると重厚感が増す。このスミ入れは
今号の組み立て作業後に行うとよい。

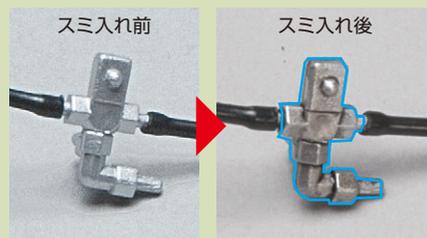
ショックアブソーバーのスミ入れ

●赤矢印で示した銀色のHIPS（スチロール樹脂）部分全体にスミ入れする。溝の部分はスミを染み込ませるように、また下部は突起の根もとや段差部分にスミ入れし、塗料を粗く拭き取って黒っぽく汚すと実車のイメージに近づく。



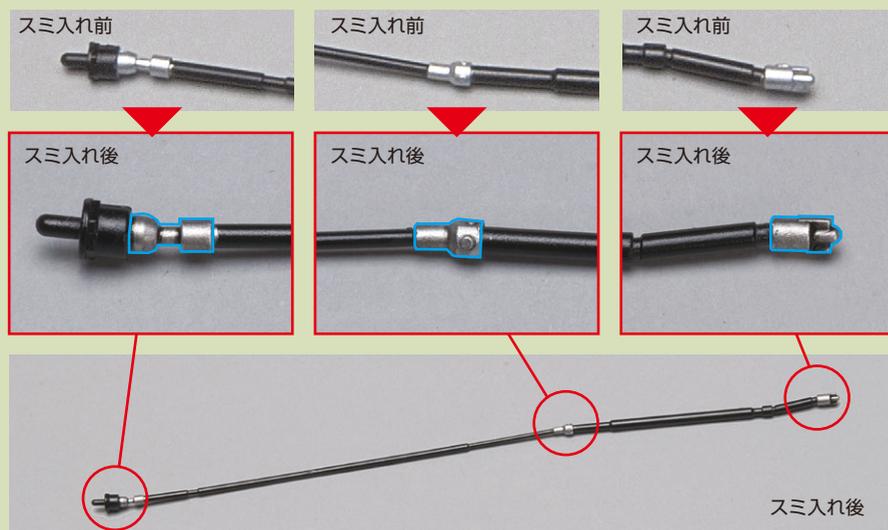
ブレーキラインTピースのスミ入れ

●パーツのディテールを強調するように青枠で囲んだ銀色の部分全体にスミ入れする。



ギアリンケージのスミ入れ

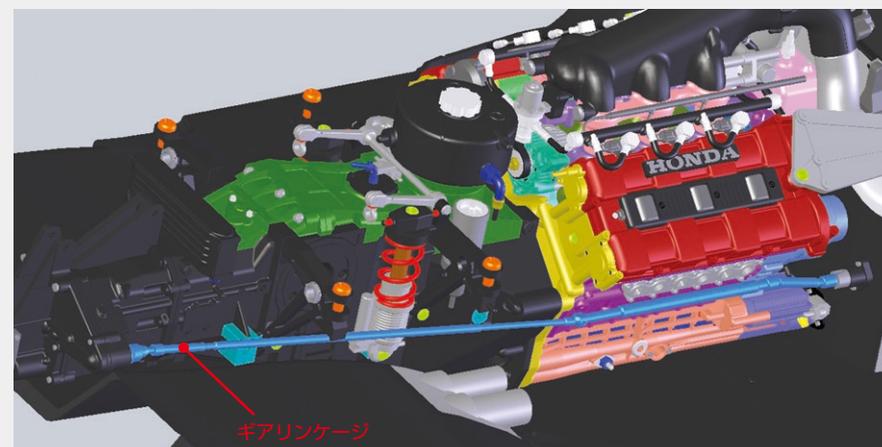
●青枠で囲んだ銀色の部分全体にスミ入れする。



※スミ入れは任意の作業だ。詳しいスミ入れ工程については、9号の組み立てガイドを参考にしよう。

PIT IN

ギアリンケージについて

トランスミッションにシフトチェンジを伝達する
ギアリンケージ

▲ギアボックス周りのイメージ図

※イラストはモデルのイメージ図のため、実車とは異なる部分がある。

ギアリンケージは、コクピット内のシフトレバーから最後部に位置するギアボックスへと連結されており、シフトチェンジをギアボックス内のトランスミッションに伝達する役割をもっている。その後の技術の進化により現代のマシンでは電子制御されているので、アナログなギアリンケージは存在しない。また、コクピット内にあったシフトレバーも、現在ではステアリングに取り付けられるパドルシフトとなった。今号で提供されているギアリンケージは、スケールモデルでも再現されることは珍しく、本モデルが1:8のビクスケールだからこそ実現できたパーツだ。



▲完成時イメージ



▲完成時イメージ

シフトレバー